国語科学習指導案

八尾市立八尾小学校

指導者 永井 陽寛

松本 美枝子

1. 日 時 令和6年11月22日 第5時限 14:00~14:45
2. 場 所 第6年1組教室
3. 学年・組 第6学年1組(37名)
4. 単 元 名 「筆者の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」
教材文：『鳥獣戯画』を読む 高畑 勲(光村図書)
「発見、日本文化のみりょく」(光村図書)

5. 単元目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
・ 比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。 【(1)ク】 ・ 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気づくことができる。【(3)オ】	・ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【B 書くこと(1)ウ】 ・ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。 【C 読むこと(1)ウ】 ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 【C 読むこと(1)オ】 ・ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。 【C 読むこと(1)ア】	・ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

6. 本単元で取り組む言語活動

「日本文化の魅力を発信しよう」

7. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。 【(1)ク】 ・ 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げること役立つことに気づくことができる。【(3)オ】	①「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。【B書くこと(1)ウ】 ②「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。【C読むこと(1)ウ】 ③「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめようとしている。【C読むこと(1)オ】 ④「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。【C読むこと(1)ア】	・ 粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもって日本文化のよさを伝える文章を書こうとしている。

8. 指導にあたって

(1)児童観

本学級の子どもたちは、国語科の学習において、昨年度からの本校の取り組みでもある言語活動を設定した単元デザインの中で「書くために読む、読んだことを書く」という意識が定着してきている。本校の国語の研究も今年度で6年目となり、研究教科に国語を据えたなかで、子どもたちは6年間の学習を積み重ねてきた。その成果が一学期に行った全国学力学習状況調査や大阪すくすくウォッチでも見られた。本校の中でも、近年で最も良い結果となり、書くことに対して抵抗感なく、また、条件を満たしながら書くということが定着してきた成果である。

その一方で、「国語の授業が好きか」というアンケートでは、そうでもないと回答した児童が3割程度いるのも事実である。その一因に、これまでの学習が一斉学習で課題解決をすることが多く、初発で抱いた自分の問いを、解決できる課題となっていなかったことが考えられる。そこで

今年度は、自分が「知りたい！考えたい！やってみたい！」と楽しみながら取り組める授業を構築したいと考え、一学期の間に取り組んだ。学習する机の配置も考慮し、4月から6・7人構成のグループにしている。この配置にすることによってどの教科でも、授業中に分からないと思ったことはすぐに友だちに聞くことができ、友だちが困っている様子にいち早く気づくことができている。そうすることで、普段休み時間一緒に過ごしている友だち以外とも関わりが増え、考えを広げることができる環境をつくっている。国語の授業においても、それぞれ違った問いの中で、同じ問いの友だちと対話し、考えを形成している。授業を行うまでは、自分の問いに対する考えを発信することはできるが、違う問いをもったクラスメイトの発言を受け止めることは、ただ聞くだけになってしまって難しいのではないかと不安もあった。しかし、子どもたちは、自分の問い以外の発表に対しても、対話し意見することができていた。意見の交流によって、さらに考え、自分の考えを広げ、よりよく形成する姿がみられている。

「時計の時間と心の時間」では、子どもたちの初発の感想における疑問の交流から、クラスの問いを設定する活動を第一次に設けた。その際に、これまでの説明文でどのようなことを学んできたのか、また説明文は何のためにあるのか等、十分に想起させる時間を設けた。この時間が、初発の感想からの問いづくりの視点、言語活動に繋がる大切な時間であると考えている。その補助となるように、5年生の各単元での学習内容や言語活動をふり返ることができるよう、フィッシュボーン図を使って作成した。ただふり返るだけでなく、図を使って視覚的に支援することで、後の活動にもつながると考えたためである。第二次では、子どもたちの問いをもとに、例の順番について考える学習を進め、自分のわかりやすい順にランキングをつけたり、例にわかりにくいところがあるという意見から、例の内容を書き換えたりするという学習を行った。そうすることで、筆者の考えを読み取り、わかろうと寄り添いながら、その上で納得できる点とそうでない点を浮かび上がらせ、自分ならばこう表現するという力の獲得を目指した。クリティカルシンキングの観点を持って学習を進めてきた。

(2)教材観

本教材「『鳥獣戯画』を読む」は、アニメーション映画監督である筆者が、アニメーションのルーツともいえる『鳥獣戯画』や絵巻物のすばらしいと感じた点について論説した説明的文章である。筆者のものの見方（解釈・評価）とその対象が明確で、読み手が納得したり自分の見方を比較したりすることができる教材である。また、結論部においては筆者の主張とそれを支える根拠が明確に書かれており、「『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。」という一文に、筆者の『鳥獣戯画』に対する評価が詰まっている。また、構成面では第9段落に筆者の主張がある尾括型の文章と捉えることができる一方、第3段落の「なぜ、漫画の祖とよばれているのか、この一場面を見ただけでもわかる。」や第4段落の「漫画だけでなく、アニメの祖でもあるのだ。」と、暗に隠された表現で文章全体の目的や主張に近いことが書かれており、第1～4段落を「初め」として捉えると双括型の文章であるともいえる。そのため、これまでの典型的な説明的な文章の構成をとっているとはいいがたいが、型にはまらないが故に、筆者の伝えたいことが強く伝わってくる教材であるといえる。

一方で、既習の説明的な文章と異なることによって、違和感を覚えるところでもある。そのた

め、既習の説明的な文章と比較することにより、今回の「高畑式」の文章の特徴を掴むことに繋がると考えている。これまでの学習においての説明的な文章の典型的な作品として、「時計の時間と心の時間」が挙げられる。6年生の第1教材であり、これまでの6年間に学んだ説明的文章の要素が詰まっている。この作品を筆者に因みに、「一川式」とすることで、子どもたちが両者の書きぶりを比較して考え、それぞれの特徴や良さに気づく手がかりとなるであろう。

また、「人類の宝」という筆者の主張にも、世界の作品との比較が書かれていないことにより、立ち止まって考えることができる。「筆者の人類の宝という評価の説明は十分か、不十分か」「なぜ筆者は世界の作品との比較を書かなかったのか」など、読み手としても書き手としても閑雅を形成することができる。これらのことから、批判的に読み進めることに適した文章である。

(3)指導観

今年度の研究テーマ「『問いづくり』からはじめる単元デザイン～一緒に考え、一緒に学ぶ～」を実現するために、今回も作品を読む前に、これまでの学習を振り返る時間を設けたい。小学校6年間の積み重ねを実感することで、本教材の特徴に立ち止まりながら本文を読み進めていけるだろう。

本単元「『鳥獣戯画』を読む」では、書き出しや会話文、呼びかけや体言止めといった、筆者の特徴的な書きぶりに対して既習の説明的文章と比較した際の評価と、筆者の主張である「『鳥獣戯画』は、だから、国宝であるだけでなく、人類の宝なのだ。」という一文に着目し、その評価に対する説明として文全体の内容や構成は十分であるか、という視点で学習を進めていきたい。

まず、本教材に対しての子どもたちの評価を、レビューという形で表現させる。初発の感想の段階では、初めて出会う「高畑式」の書きぶりをおおむね好意的に受けとめると考えている。しかし、中には、既習の書きぶりとの違いに違和感を持つ子どももいると想定している。筆者の意見や評価の言葉が多いからこそ、「圧が強い」「押しつけがましい」「しつこい」と感じることもある。一方、既習の「一川式」では、整った冷静な書きぶりで、事実や実験結果を伝えている。今回は『鳥獣戯画』の世界を伝えるためにはどちらの書きぶりが適しているのか、高畑さんはなんのためにこの書きぶりを用いたのか、に迫ることを目標に据え、書く目的や内容によって書きぶりを選んでいくこと、使い分けていくこと、を学ぶ機会としていく。

また結論部における筆者の主張にある「人類の宝」という表現に飛躍があるのではないかと考える子どもをいだろう。そこから、子どもたちの思考をゆさぶることで、「筆者の説明は十分だったのか、不十分だったのか」に対する子どもたちの考えのズレを整理し、筆者の考えや書きぶりに着目しながら読み進めていけると考えている。

本単元では全員が同じ課題に取り組むのではなく、「書きぶりチーム」と「主張チーム」に分かれて、それぞれ取り組みたい課題を班ごとに選択できるようにしていく。書きぶりの時間では「高畑式」と「一川式」に分かれ、それぞれの書きぶりで『鳥獣戯画』を表し、良さを討論させる。「主張チーム」はその討論を聞き、どちらの書きぶりが『鳥獣戯画』を表す際に良いのかを判断する役割を担う。同様に主張の時間では「十分派」と「不十分派」に分かれて討論を行っていく。その中で、「十分ではない」という意見には、どのような表現を加えればより良い文となるかも考えさせていきたい。筆者である高畑さんの考えを受け継ぎながら、漫画やアニメという子ども

もたちにとって身近な文化のルーツをもつ『鳥獣戯画』の良さを伝え継いでいく存在として、単に批判的に読むのではなく、あくまで、よりよいものを作っていくためという意識を大切にす

る。
 言語活動では、これらの学習活動を通じて作り上げた考えを用いて、「日本文化の魅力を発信しよう」に取り組む。文章と図や絵との関連を意識しながら、それぞれの文章を書き上げていけるように支援していきたい。

9. 単元の指導と評価の計画（全10時間）◎…記録に残す評価 ○…指導に生かす評価

次	時	主な学習活動	知技	思判表	主体	評価規準・評価方法
1	3	- これまでの説明文教材をふりかえる - 作品に出会い、構造と内容を確認する - 初発の感想を書く(レビューをつける) - 初発の感想の交流から「問い」をつくり、作戦会議をする【本時】 「これまでの説明的文章と比べていこう(高畑式 VS 一川式)」 「人類の宝の説明は十分か不十分か(十分 VS 不十分)」	◎	◎		- 作品の構造について理解し、筆者の主張を捉える。 【知・技①】 【思・判・表④】〈ノート〉
2	5	- 活動班に分かれて、考えたい問いに対する考えを形成していく。 - 考えを交流する - 学習のまとめとしてレポートにまとめる	○	○	○	- 学習したことを基に、自分の考えをまとめている。 【知・技①】 【思・判・表②③】〈ノート〉
3	2	- 日本文化を紹介する文章を書く - 文章を交流する	◎	◎	◎	- 自ら題材を選び、学習したことを基に工夫して文章を書いている。【知・技②】 【思・判・表①③】【主】 〈行動観察・ノート〉

10. 本時の展開(3/10 時間目)

(1) 本時の目標

- ・初発の感想から学習課題を設定するために、考えを伝え合うことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・初発の感想から学習課題を設定するために、考えを伝え合おうとしている。【思・判・表③】

(3) 展開

主な学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1. 初発の感想を読み返す。	・初発の感想を班内で交流させる。	・班内で発言しているかどうかを見取る。 【発言】
2. 初発の感想を交流し、学習課題を作り、作戦会議をする。	・発言を繋げるように全体で交流させる。	・全体への発言に対する反応を見取る。 【発言】
学習課題を作り、作戦会議をしよう		
(1) 筆者の書きぶりについて	・「書きぶり」に着目した発言を繋げていく。	
(2) 筆者の主張について	・主張や論の展開に着目した発言を繋げていく。	
3. 振り返りを書く	・学習してみたい課題について振り返りを書かせる。	・学習してみたい課題について書いているかを見取る。 【思・判・表③】 【発言・ノート】

(4) 本時における具体的な児童の状況（※本時の評価基準に関わる場面において）

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
・全体に対する発言や班活動での発言において、クラスとしての学習課題について話し合えることができる。	・クラス内での発言に対して、賛成か反対かなどの選択肢を示して、判断させていく。